

## 5 - 8 森～御前崎間の重力変化

### Change of Gravity in the Region between Mori and Omaezaki

京都大学・理学部

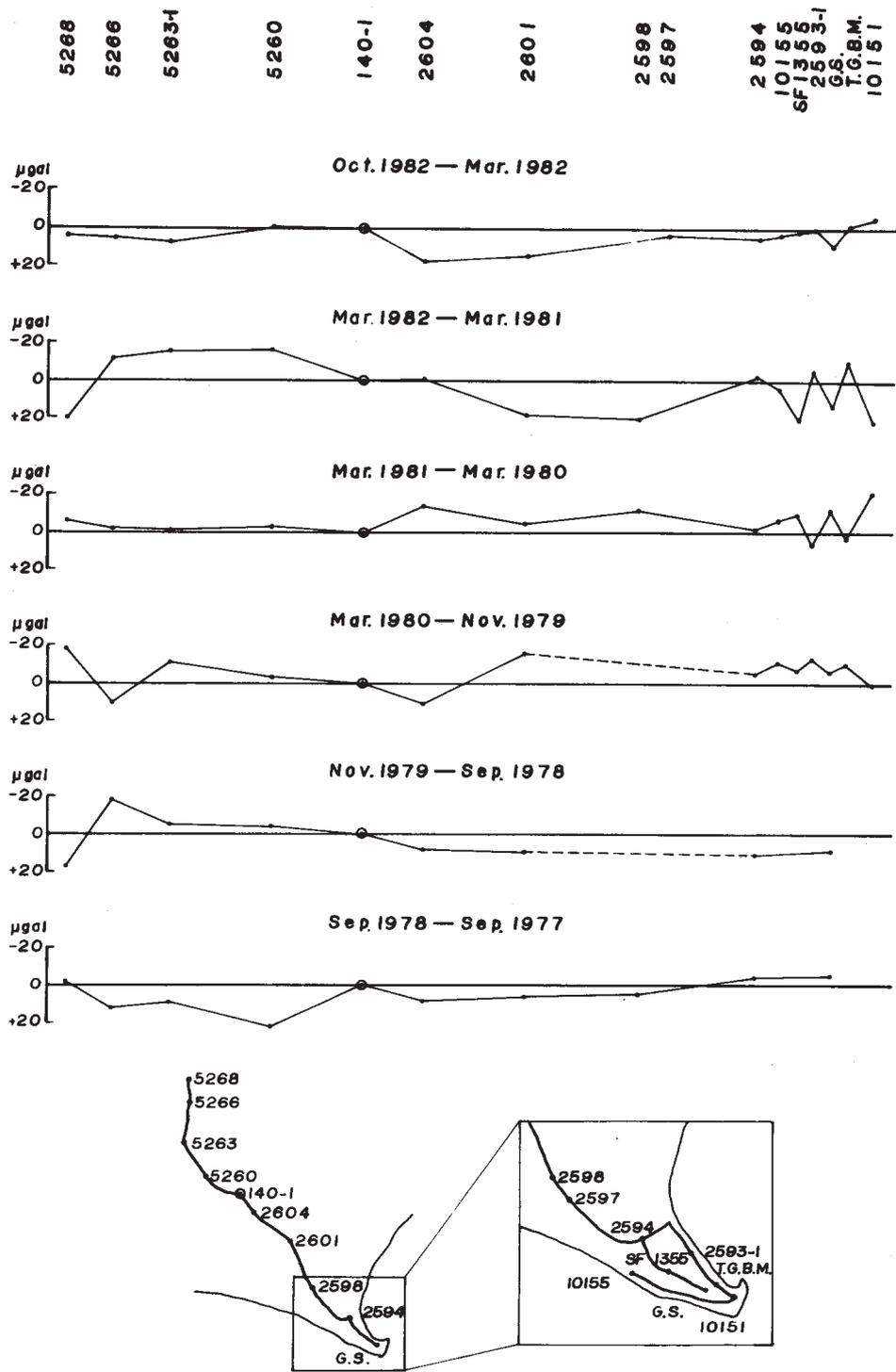
東京大学・地震研究所

Faculty of Science, Kyoto University  
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

1982年10月、森～御前崎間の水準路線において第9回の重力の精密測定を実施した。使用した重力計は、前回と同様、3台のLa Coste重力計であるが、従来測定を行っていた水準点の中の二つ、すなわち5263と2598は測定環境が極めて悪く、精密な測定が期待できなくなったので、この2点における測定は中止することとし、前回から5263の代りに5263-1において、また2598の代りには2597において測定を行った。

第1図は、掛川の水準点140-1（図の◎印の点）の重力値を不変と仮定して、第3回測定（1977年9月）以後の各水準点の重力変化を示したものである。Oct. 1982 - Mar. 1982の変化グラフで特徴的なことは、水準点2604より右側の点すなわち御前崎寄りの点では変化グラフが右上りになっていることである。この傾向は、国土地理院の1982.10～11 - 1982.7～8の上下変動グラフから期待される重力変化の傾向とは正反対であるが、重力の測定期間にほぼ対応する1982.10～11 - 1982.2の積算変動グラフとは大勢においてよく一致している。このことは、重力測定と水準測量の結果を比較する場合には、両者の測定期間の相違について十分に吟味する必要があり、この吟味を十分に行いさえすれば、重力測定はある程度水準測量の代りになり得ることを示すものと言えよう。

なお、第61回地震予知連絡会に提出した資料は暫定資料であり、最終資料は本会報に掲載のものであることに留意されたい。



第1図 森-御前崎間の重力変化。○印の水準点の重力値を不変と仮定している。

Fig. 1 Change of gravity in the region between Mori and Omaezaki. Gravity value at the bench mark ○ is assumed as invariable during the period.